

# 生物多様性広島戦略 ひろしま県民いきもの調査 環境省『いきものログ』を使って、 みんなで生きものマップを作ろう！ せら夢公園 実習観察会 報告書

開催日時：平成30年8月4日(土) 10:00~12:30  
場所：せら夢公園 自然観察園（世羅郡世羅町黒淵）  
講師：〔昆虫〕延安 勇 （せら夢公園 自然観察園）  
〔植物〕大竹 邦暁 （中電技術コンサルタント株式会社）  
主催：広島県環境県民局 自然環境課  
共催：せら夢公園 自然観察園

猛暑が続く8月上旬、高原の涼しさがかすかに感じられるせら夢公園自然観察園で、『広島県民いきもの調査』の一環として、『いきものログ』を用いた「実習観察会」が開催され、小学生からご年輩までの男女8名が参加しました。

『いきものログ』は、生物の観察記録を、インターネットを利用して環境省のデータベースに報告・蓄積するシステムです。広島県は、このシステムを県内の生物情報を集める『広島県民いきもの調査』に活用しています。参加者の皆さんに、実際に、『いきものログ』を使った県の調査へのデータ報告に挑戦していただくことが、実習観察会の主な目的です。

集合したテントの外では、夏の日差しで気温がぐんぐん上がっていくみたい。『いきものログ』についての説明や登録、広島県レッドデータブック改訂への活用など、話題はたくさんあったのですが、レクチャーは手短かに済ませ、いざ、フィールドへ。

開催地がある世羅町は、古くから湿原の希少生物の宝庫として知られるだけでなく、ヒョウモンモドキをはじめとした重要な生物の保護活動が盛んです。ただ、これら希少生物は保護区などで守られているため、普段、一般の方がその姿を間近で見られる機会は限られます。せら夢公園の自然観察園は、こうした希少生物に一般の方が親しんでいただくための展示施設としての役割を持っています。この観察会でも、存分に親しんで頂きました。

今回の観察会では、サギソウの花の解剖、ヤチシヤジンの観察、ヒョウモンモドキの保護増殖ハウスの



『いきものログ』報告や広島県版レッドデータブックの改訂予定についてのレクチャー



最初のいきもの情報は昆虫でも植物でもなくトイレのコシアカツバメでした。巣作り中の巣。



管理人の延安さんのご案内  
『自然観察園では、希少生物に親しめます！』



いきもの調査では“見つけた場所情報”がとても重要！地図でイシガメがいた池の位置をチェック。



サギソウが一面に咲き誇る『ヒヨウモンモドキ湿地』。白い点は全てサギソウの花でした。



広島市植物公園で長年保護されていたヤチシャジン



ヒヨウモンモドキの保護増殖ハウス

見学を行いました。

人工湿原の上流にある『トンボ池』で、イシガメとウシガエルの幼生を見つけました。地図に場所をメモしようとしたら、「あれ？」途中の里道がカーブしていたせいか、地図の向きが分からなくなっていました。皆で確認してから、いよいよ湿原に向かいます。

この観察会の1か月前、平成30年7月豪雨がありました。世羅町でもあちらこちらで土砂崩れがあり、この湿原でも一部に土砂が流れ込みましたが、湿原のほとんどは無事でした。

水田跡に見事に再現された湿原の名前は、『ヒヨウモンモドキ湿地』なのですが、湿原の植物の宝庫でもあり、ちょうど、サギソウが見ごろを迎えていました。花の数は優に千を超えて数えきれません。かつて保護と展示のために持ち込まれたサギソウが、ここまで増えたそうです。なお、この湿原では5月にも、トキソウが同じように一面に咲きます。

管理人の延安さんから、「是非、花を手にとってよく見て下さい。」と勧めていただき、みな、遠慮がちに花を摘み取って間近で観察です。花被片一枚一枚から仮おしべ、緑色で扁平な柱頭など、配布資料の拡大写真を参考に花被片をめくりながら花の造りをつぶさに見ます。すると、指先にピロっと、薄黄色の粒がくっつきました。「こうして、蜜を吸いに来たスズメガの仲間に花粉をくっつけて、運んでもらいます。」指先に付いたのは、サギソウの花粉塊でした。蜜がほんのり甘いこともわかりました。

サギソウの他に、保護と展示のために持ち込まれた植物で特筆すべきはヤチシャジンです。こちらもちょうど見ごろを迎えていました。かつて、世羅町西部の自生地から保護増殖のために広島市植物公園へ託された種子を起源とする株で、その一部が植物公園から寄贈されたものです。県内のヤチシャジンは現在、僅かに残った自生地の多くが保護区の中にあります。「初めて実物を見た！」という声が上がりました。ヤチシャジンは湿生植物の一つですが、水浸しの湿原の中には生えず、その縁で良く育ちます。このため、ヒヨウモンモドキ湿地でも、サギソウを観察した湿原の外の、畦のようなところに植えられて

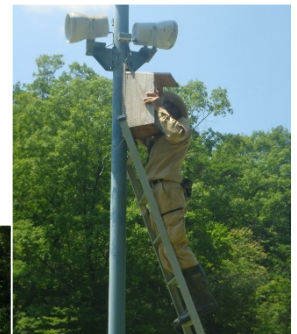
います。高さが1mを超えるととても立派な株です。

ヒョウモンモドキ湿地の下手には、ヒョウモンモドキの保護増殖のためのビニールハウスがあります。今回は、特別に中に入れていただきました。ハウスの中も湿原になっていて、ヒョウモンモドキの幼虫の餌であるキセルアザミがたくさん栽培されていました。でも、アザミの葉のほとんどは黒く縮んで汚れています。ヒョウモンモドキの幼虫が食べたためです。この時期、幼虫はとても小さいまま、キセルアザミの枯れて縮んだ葉の裏に隠れて休眠の準備に入るそうです。なかなか見つかりませんでした。二つ目のハウスの中で散々探したら、だんだん、黒くて小さい毛むくじゃらの幼虫が見えるようになってきました。

昼の時間になったので、最後に、つい先日まで使われていたブッポウソウの巣箱をご紹介します。観察会は終了しましたが、この後も、コウホネやオモダカが咲く溜池の湿生花園やメダカ池で、大人たちはコウホネやヤマトミクリ、マルバオモダカなどの植物観察、子供たちはコオイムシやマツモムシなどの水生昆虫採集に勤しみ、おなかが減って我慢できなくなったところでようやく解散となりました。

参加人数が少ないこともあり、『いきものログ』へのデータ報告について、現地でのスマートフォンやタブレットを使った報告や、自宅からのパソコンを使った報告についても個別に実習・ご説明する機会がありました。これを機に、参加者のスタイルに合わせて、『広島県民いきもの調査』への様々な参加方法の幅を広げていければいいと思います。

〔実習観察会スタッフ〕



熱い中を頑張りました！

